

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	19人	算数	19人	理科	19人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	18人	算数	18人	理科	18人
------	----	-----	----	-----	----	-----

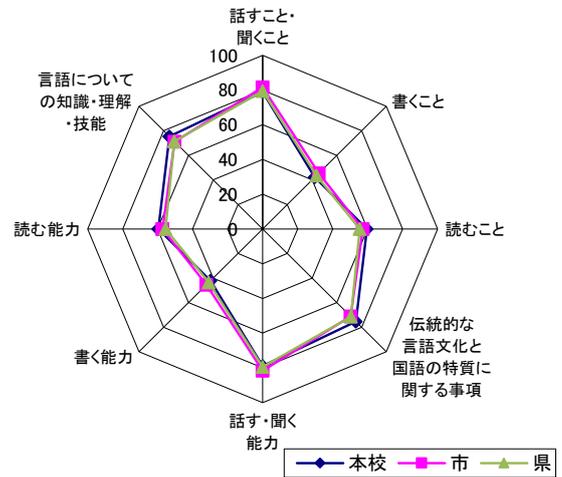
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	78.9	81.6	79.4
	書くこと	42.1	45.4	43.6
	読むこと	59.6	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.3	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	78.9	81.6	79.4
	書く能力	42.1	45.4	43.6
	読む能力	59.6	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	75.3	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

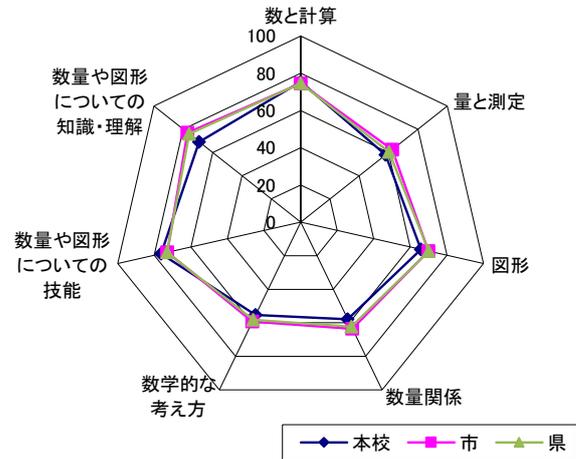
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○●司会の役割は理解しているが、話し合いの内容や発言を整理することについては、十分でない児童が多く、県や市と比べて10ポイント以上低い。	・話し合いや発表の場面で、相手の話をよく聞き正確に理解することや、内容を整理しながら聞くことを意識させる。
書くこと	○●報告レポートの文章構成は理解しているが、メモを基にレポートの内容を書くことについては、市や県の平均をやや下回っている。無回答も20ポイントとやや高い。最後の問題までたどり着かなかった可能性もある。	・複数のメモや資料から情報を読み取り、それらを関連付けて自分の考えを述べるができるように、各教科や総合的な学習の時間に調べ学習を行う。
読むこと	○全体的には県や市の平均を上回っている。 ●書き抜く問題では、問題の答えに当たる部分を文章から探すことはできるが、自分の言葉で書き換えてしまう誤答が多い。	・条件に合わせて答えられるように、練習を繰り返す。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○ローマ字は宇都宮市と比べるとかなり定着率が高い。国語辞典の使い方についても県や市の平均を大きく上回っている。 ●普段児童が使う機会の多い漢字の読み書きについては比較的よくできているが、複数の読みがある漢字や、同音漢字との混同が見られる。	・新出漢字の学習の際に、多様な読み方に触れるようにする。様々な熟語やドリルに出てくる以外の活用についても、宿題等で補充する。

宇都宮市立清原北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.4	74.5	74.6
	量と測定	57.9	62.4	60.4
	図形	65.8	69.9	70.1
	数量関係	57.9	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	55.3	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	76.3	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	69.2	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

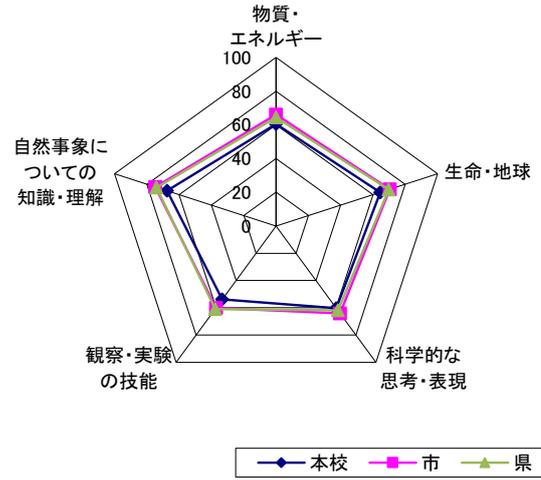
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○●基礎的な計算力は身に付いているが、何かを基にして考える計算が苦手である。また、かけ算の意味やきまりが理解できていない。問題の意図をつかみきれていない傾向がある。</p>	<p>・今後も宿題などで、基礎的な問題に繰り返し取り組み、計算の速さと正確さの向上を図る。</p> <p>・課題の場면을正しく理解できるように、図や数直線、半具体物等を活用した授業実践をする。</p>
量と測定	<p>○時刻を逆算して、間に合う一番遅い電車の発車時刻を時刻表から見つける問題では正答率が県や市の平均正答率をやや上回っている。</p> <p>●重さの問題に関しては、はかりが示す重さを読み取ることはできるが、およその見通しを立てることが苦手であり、県や市の平均を16ポイント下回っている。</p>	<p>・今後も学校生活の中で、残り時間を意識したり、計画を立てて活動に取り組んだりする場면을意図的に設定することで、時間の感覚をもたせる。</p> <p>・長さ、時間、重さなどの単元では、具体物を授業に取り入れ、予想をしてから実測をすることで、実生活と結びつけて量的な感覚を高める。</p>
図形	<p>○円と球に関する基本的な知識は身に付いており、絵を見て直径を求める問題の正答率は県や市より高い。</p> <p>●折り紙を切った後の形を予想する問題の正答率が低く、三角形の性質を理解できていない児童が多い。また、正三角形の作図も県や市より10ポイント低い。</p>	<p>・TTで指導する良さを生かし、机間指導やノート指導を充実させると共に、体験的な活動を取り入れながら、図形の性質を理解させ定着を図る。</p>
数量関係	<p>○2つの棒グラフを比べ、目盛りの違いから数値を正確に読み取り説明する記述問題については、県や市の平均を20ポイント上回っている。</p> <p>●問題の意味を理解し、どんな計算になるのか見通す力が弱い。また、問題に合う口を使った線分図を選ぶことについても課題が見られる。</p>	<p>・問題を読んで自分で線分図を書いたり、口を使った式を立てたりする場面を多く取り入れ、線分図のよさに気付かせる。</p>

宇都宮市立清原北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.5	66.1	64.4
	生命・地球	64.5	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	60.3	64.1	61.9
	観察・実験の技能	53.9	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	67.5	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○ゴムのはたらきについての問題では、ゴムをねじる回数と進む距離の関係について理解できている児童が多かった。</p> <p>●電気の通り道に関する名称やあかりがつく電池のつなぎ方など基本的な知識が身に付いていない。そのため、見えない部分の回路の様子を推測する活用問題も正答率が低かった。</p> <p>●光の性質についての問題では、日光を重ねた時の明るさと温度の変化を表から読み取り、条件として提示された言葉を使ってまとめることが困難な児童も見られた。</p>	<p>・「回路」や正しい電池のつなぎ方など基本的な内容を確認し、定着させていく。</p> <p>・実験などに意欲的に取り組む児童が多いが、実験の目的をきちんと把握し、結果からどういったことが分かるかななどを一人一人がしっかりと考えられるようにしていく。また、キーワードなどを提示し、それらを使って整理する時間なども設けていく。</p>
生命・地球	<p>●昆虫の体のつくりについての問題では、昆虫の図を見て、選択し、その理由を答えられない児童が多かった。</p> <p>●虫眼鏡や方位磁針などの使い方を十分に理解できていない。</p> <p>●かげのつき方と太陽の光についての問題では、時間によるかげの向きや動きについて理解できていない児童が多く見られた。</p>	<p>・昆虫の体のつくりの特徴を確認し定着させる。忘れないよう実物や写真などを実際に見て確認させたい。</p> <p>・実験道具の名称や使い方などは復習するとともに、使うたびに簡単に確認させる。</p> <p>・かげのつき方や向き、動きについては、晴れた日に校庭で実際に復習し、体験的に学習していく。その際に太陽との位置関係や方位なども確認する。</p>

宇都宮市立清原北小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○●「勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定割合が100%であり、「将来の夢や目標をもっている」の肯定割合も高いことから、学びに向かう意欲が高いと言える。一方で「自分は勉強がよくできる方だと思う」の肯定割合は低い。授業の中で課題を工夫したり、反復練習をしたりしながら基礎・基本を定着させていく。また、授業の中で目当ての設定やまとめ、ふり返りを大切に、学んだことがきちんと身に付くようにしていく。

●「自分はクラスの中の役に立っていると思う」、「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定割合が県や市を下回っている。係活動や役割を与え、責任を果たせるよう個に応じた支援をしていく。また、できたこと、頑張ったことに対しては担任はもとより、学級みんなで称賛していく場をつくる。

●「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」の肯定割合は、県や市の肯定割合を下回る。人の話を聞くことの大切さを理解させるとともに、聞き方というものを確認する。必要に応じて、役割演技なども取り入れ、練習していく。

●放課後等活動KASAで学習する時間を取っているせいか、家庭で学習している児童が少ない。そのため、「家で学校の予習、復習をしている」の肯定割合が県や市の肯定割合より低い。また、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の肯定割合が県や市を下回っている。KASAでの学習で学習時間は確保できているが、高学年、中学生など今後に向け、家庭で学習することの大切さを児童、保護者に周知していく。テストで間違えた問題については、返却後、学校でやり直す時間を確保するとともに家でも復習できるよう、テストの付録であるプリントを配布する。